

清新の気

学校だより
No. 8
大津市立粟津中学校
平成30年1月12日発行
全校生徒 513名

新たな挑戦は新たな発想を生み出す

校長 川辺 勉

新年明けましておめでとうございます。毎年1月1日になると今日から「新しい1年」が始まるのだと自覚します。初詣に行き願い事したり、「今年は〇〇にがんばります」と気持ちを新たにす日だからです。人それぞれ願い事は違うけれども、健康で安心・安全な1年であってほしいと思うことは共通していると思います。みなさんも「勉強や部活にがんばりたい」「志望する学校に進学したい」という願いがかなうよう祈ってきたと思います。大事なものは、この「願い」をいつも持ち続けることと、「願い」を実現するために「自分はこれから何をすればよいのか」を考えることです。考えたけれどもなかなかそれを実行することができないことも多いかもしれません。

しかし、1月1日が気持ちを新たに持つことと考える機会であるということは、自分のもっている可能性へ向かっての「新たな挑戦」への準備が始まっているといえるでしょう。「願い事」にもよりますが、1日でできるかもしれないし、1か月でできるかもしれません。いや3か月、半年、1年、5年、10年、20年かかるかもしれません。

これからの社会は AI（人工知能）が活躍する時代になるといわれ、世の中の仕組みが急速に変わりつつあります。IT（情報技術）革命によって今後10～20年で、今存在するさまざまな仕事が自動化され、人間の仕事ではなくなると考えられているともいわれています。

だけど、AIにはまだできないこともあります。これまでの記憶型の学習や簡単な作業の効率化などでは機械には勝てないけれども、AIは過去のデータを蓄積して分析し、学ぶ必要がありますから、「経験のない状況で判断すること」や「まったく新しい発想をすること」はまだできないと思います。大惨事が起こった時の状況判断や人が人への対応も AIにはまだできません。さまざまな経験を持ち、感情がある人間だからこそさまざまな状況での取り組みから得たことを生かすことができます。

1年の初めに気持ちを新たにし、何をすべきかを考える機会をもち、「新たな挑戦」を始めることは「新しい発想」を生み出すスタートです。

生徒会執行部任命式

12/11

12月11日（月）の放課後、新生徒会執行部の任命式を行いました。執行部員の募集・面接を経て決定した23名に、校長先生から任命証が手渡されました。執行部員一人一人からは抱負が語られ、それに対して校長先生から生徒会へのアドバイスが話されました。

これからの1年間の活躍を期待しています！

<生徒会執行部の紹介>

会 長	中島 駿
副 会 長	前田 彩月、岸本 椰紗
庶 務	中尾 一華
書 記	峰松 鈴奈、筒井 琴里
会 計	小野 俊輔
代 議	横尾 朱音、大田有佳里
福祉環境	高槻 心愛、伊藤 瑠花
体 育	中村 蒼汰、中島咲弥花
美 化	山本 実来、田村 碧唯
生 活	圓花 杏映、吉江 優樹
図 書	李 潤書、松下さくら
保 健	山家 惇、栗田 理音
広 報	境 桃花、梶山 拓真

『日本一琵琶湖に近い中学校』

我が校からの発信

すでに紹介しましたが、昨年行われた滋賀県中学生広場では、本校を代表して3年生の安食さんが意見発表を行い、見事優良賞を受賞しました。裏面にその原稿を掲載しますので、ご一読ください。

1・2年生の保護者の皆様へ

■学年懇談会のお知らせ

2月16日（金）に授業参観および学年懇談会を実施します。また、同日に「平成30年度第1～5ブロック地区委員選出会」もあわせて行いますので、ご参加のほどよろしくお祈いします。



『日本一琵琶湖に近い中学校』我が校からの発信

安食 亜美

『福祉環境委員長』、これが、生徒会入りを希望していた私が、昨年11月に執行部員としてスタートを切った役職です。

皆さんは、福祉や環境について考えたことがありますか。私は正直言って、これまで真剣に考えるどころか、少しの関心も知識もありませんでした。なぜって、そんなことを考えなくても、学校では何一つ不自由なく生活できていたからです。

しかし、生徒会にある8つの委員会の1つには「福祉環境委員会」が組織されています。それは、中学生が社会とどのようにつながり、関わっていくか。今から様々な経験を通して学ぶためだと思います。何も知らない私でしたが、「きっと何かできることがある」と考え、執行部員としての日々を送り始めました。

本校の正門を出て湖岸道路を渡ると、そこにはすぐ琵琶湖があります。私は、1年生のポート教室で、湖面を吹く爽やかな風を体で感じながらオールを漕ぎ、琵琶湖をより身近に感じるとともに、その美しさに改めて感動しました。また、本校の位置する晴嵐は、近江八景の一つ『粟津の晴嵐』として、古くは安藤広重の風景画にも描かれています。現存する松に加え、沿岸に新たに整備された松は、粟津中学校の校歌にも歌われ、本校のマスコットキャラクター『あわ松くん』のモチーフでもあります。このように、粟津は古くからの自然を大切にしてきました。社会科の授業でも、滋賀県は、赤潮発生の原因であるりんを含む合成洗剤の使用を禁止した富栄養化防止条例を制定し、湖を守ってきたことを知りました。

しかし、湖岸を歩いてみると、異臭が鼻を突き、心ない人により捨てられたごみが目に飛び込んできます。

そこで、私は福祉環境委員長として、『日本一琵琶湖に近い中学校』を合言葉とする私たちだからこそ、何かできることはないかと考えました。そして、学校や地域の清掃活動を通して、学校周辺を綺麗にしていく《レッツ・クリーンきれいにし隊》を執行部内に組織し、活動し始めました。普段は朝に執行部員で湖岸を掃除するのですが、6月には、もう少し規模を大きくし、琵琶湖清掃大作戦を決行しました。当日放課後、ボランティアとして集まった生徒は総勢367人。予想を超える人数になったため、3つのグループに分け、時間と場所をずらして活動しました。参加者は黙々とごみを拾い、中には湖に浮かぶごみまで取ろうとする人もいました。約1時間、湖岸2キロほどの区間を掃除した結果、回収したごみは70リットルのごみ袋6袋分の量になりました。普段気にしないと見えなかったごみも、意識して探すと結構見つかるもので、リサイクルできるペットボトルやビンも沢山ありました。歩いていると、道端の小さなたばこの吸い殻までも気になりました。

この活動を通して、私が実感したのは、やらなかったら見えないことも、やってみて初めて見えてくることがあるということでした。琵琶湖の水は私たちの命の源です。母なる湖を預かっているのは、私たち滋賀県民です。今はまだ、校内だけで終わっている《レッツ・クリーンきれいにし隊》の活動も、小学校やPTA、さらには地域に呼びかければ、大きな輪になり、大きな力になります。

琵琶湖が日本一大きな湖であることは、誰もが知っています。将来、琵琶湖が日本一透明で、日本一ごみの少ない、日本一美しい湖として、誇れるものにしたい。私は、そんな夢を抱くようになりました。そのためには、私たちのほんの小さな取り組みが広がるよう、この活動をもう一步進めていかなければなりません。夢の実現に向かってもうひと頑張り、私は、仲間の輪を広げていきます。